

図書館通信

- 17 -

1972. 9

あすの図書館のために

近 昭 夫

わたくし達の研究とは、主として文献を読んだり調べたりすることなので、図書館が整備されているかどうか、使いやすいかどうかということが仕事の進みぐあいに大いに影響してくる。そこで図書館のあり方についても関心をもたざるをえなくなるのだが、そんなわたくし達にとってわが静岡大学附属図書館は、残念ながらもまだまだ満足できる状態にはない（以下、話を「本館」に限る）。静大図書館が今後充実していくことを願って、図書館が現在かかえている問題のいくつかについて考えてみたい。

まず物的基礎の問題から。わたくしは昭和45～6年度の図書館委員であったが、いま図書館が直面している最大の問題は予算の問題である。予算が少ないのはいずれも同じであろうが、図書館の場合は単にその絶対額が少ないということではすまされないものがある。図書館関係の予算

にはいろいろなものがあるが、主要なのは図書館維持費である。これは毎年、図書館委員会、図書館維持費配分検討委員会の審議を経て決められ、その総額は文部省から維持費としてくる予算、大学本部負担および各学部負担より構成されることになっている。ところで、そのうち文部省分が極めて少ないのである。45年度の維持費総額（本館）は879万円（端数は省く）であったが、そのうち本省分は120万円（13.6%）、46年度には総額1,042万円のうち124万円（11.9%）、そして本年度は総額1,186万円のうち130万円（10.9%）でしかないのである。本省は必要な経費の割しかよこさないのである！これが予算に関する第一の問題である。このことは、直接には、静大図書館がCクラスにランクされていること（Aは東大、京大等、Bは文科系に大学院のあるところ）によるものであるが、このような地方大学を差別するやり方は直ちに改めて欲しいものである。次に、少ない予算を一層窮屈にしている事情がある。それは非常勤職員の賃金の問題である。このところ毎年のように学生定員が増加してきていることもあって、図書館の仕事の量は著増してきている。ところが、この数年来図書館の定員は少しも増えていないのである。そこでやむなく非常勤の人に仕事をお願いすることになるわけだが、そのため経費が45年度には307万円（本館維持費の34.9%）、46年度には406万円（38.9%）であり、そして本年度は515万円（43.4%）にもなるという。したがって、図書館が実際に使える予算は、毎年わずかしか増えていないのである。しかも、物価は年々上昇していくのであるから、図書館が現在の仕事を単純再生産するだけで精いっぱいということになったとしても、やむをえないというほかなかるう。学生諸君にしてみれば夜は9時頃まで、夏休みも冬休みもずっと利用できる図書館が欲しいことだろうが、現状では望むべくもない。また、現在、図書の購入から整理までに時間がかかりすぎることに不満をもつ人が多いが、それもこのことと無関係ではない。大幅な定員増が必要なのである。いわんや、定員削減などもってのほかと言わざるをえない。

も く じ

- ・あすの図書館のために…………… 1
- ・浜松分館だより…………… 3
- ・私のすすめたい本…………… 4
- ・司書選定基準作成への一歩…………… 5
- ・第2回東海地区国立大学図書館業務連絡会議…………… 5
- ・附属図書館白書〈その2〉…………… 6
- ・東部地区図書委員会報告…………… 6
- ・お知らせ…………… 6

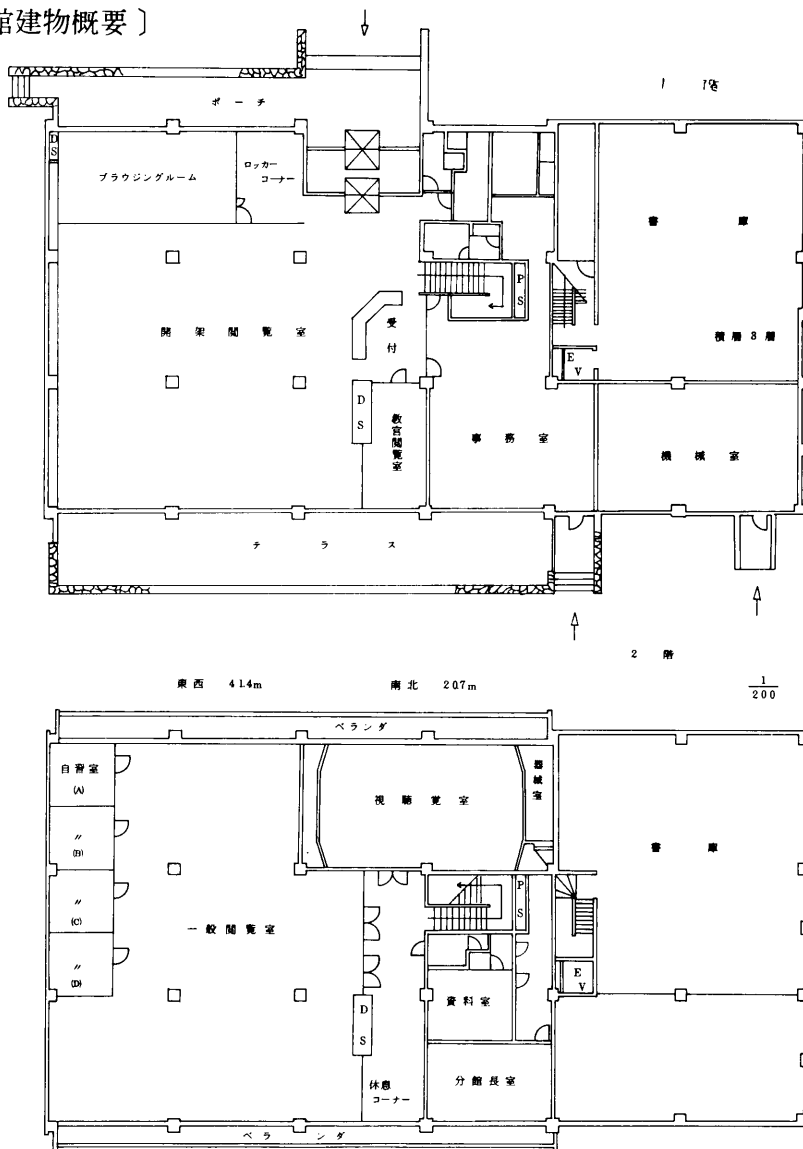
このような大きな問題の他にも、わたくし達の努力しだいで解決できる問題もある。その第一のものは、図書の集中管理方式に関する問題であろう。少ない研究費を合理的に使用するために多くの人が共通に利用する図書を図書館が集中的に管理し、無駄を少なくすることが、集中管理方式のそもそもの狙いである。静大図書館でもその原則に即して、購入した図書は原則として書庫に置き、特別な図書に限って研究室貸出しを認めるということになっていたはずである。ところがいつのまにかこのルールが崩れてしまい、無原則的な研究室持込みが増えると共に、その一方で図書館は研究室貸出しそのものを警戒するようになってきて

いる。この辺で、集中管理図書の基準をもう一度はっきりさせてはどうだろうか。その上で、集中管理すべき図書については研究室への持込みを断るが、他方で特殊な専門の文献についてはもっと気軽に研究室貸出しができるようにしてはどうだろうか。

最後に、苦言を一つ。それは図書の分類のことである。これは前から言われてきていることであるが、ここでもう一度検討していただきたい。とくに、叢書やシリーズものをばらばらにして、別々の棚に並べるのだけは止めてほしいと思うのだが。

(人文学部 助教授 理論経済学)

〔浜松分館建物概要〕



浜松分館だより

新図書館を開館してみても

「学生にとっては学習のセンターとして、書齋のように不断に利用されること」（静大だより25号）と、分館長も述べておられるように、新館建築に当り設計の基本点は、やはり『利用者のための図書館』を理想像とした。開館4カ月の現在、どの部屋も多数の利用者が来館している。

1F開架閲覧室は、参考図書・指定図書・利用頻度の高い一般図書・バックナンバー・新刊学術雑誌類を配架し、前面パネル付きの個人席を中心に、特別注文の木製家具を基調としている。床はカーペット張りにしたため、靴音などの雑音が消され、静かな雰囲気を保つのに役立っている。館内のチェックポイントは、この開架閲覧室に入るときだけで、他の閲覧室はノー・チェックで利用できる。

2F一般閲覧室は、中央ドームから自然光を取り入れ、そこにシャンデリアの輝く明るい部屋となっている。閲覧机は一人掛、二人掛、四人掛の三種類あるので、利用者は好みのものを利用できる。

4室ある6人掛黒板付きの小自習室は、大変好評で、ゼミナール・グループ討論・レポート整理など延べ81回利用された。

いま一つ特長のある視聴覚室は60席で、16ミリ・8ミリ各映写機、スライド、オーバーヘッドを設備し、フィルム又はスライドを前もってセットしておけば、講演台に於て、室内灯の点滅、スクリーンと暗幕の開閉、映写機の始動・停止・駒送りなどすべてリモコン装置で行うことができる。

学会の講演、研究発表会、通常の講義等に延べ37回利用されたが、今後は月一回位昼休みを利用して、産業映画を中心にした映写会を開催したいと思っている。

視聴覚室といっても現在は「視覚」だけなので、「聴覚」についてはこれから逐次計画し、音響効果も考慮して設計されたこの部屋を有効に使用していきたい。

次に利用者の立場から、新図書館の感想を聞いて

てみた。

（機械科助手 野 飼 亨）

自習室は、全部同じ大きさのものでなく、一つ位大きいのが欲しかった。視聴覚室はもっと収容人員の多い方が良かった。

開架閲覧室にある学会誌、研究機関の報告書、各大学の紀要類は、こういう刊行物もあったのかと実際に見られるので良い。

（電子科大学院1年 テイン・アオン）

第一に、研究発表などの場合、視聴覚室は便利だ。第二に、静かで広く、環境が良いので、研究室より勉強が良く出来る。朝早くから新聞が読めて、好きな本から手早く複写してくれる。第三に、毎週火・金曜日の夜間開館も便利だ。しかし、外国語の参考書が少く充分でない。貸出期間も10～14日間位にして欲しい。

（機械科大学院1年 村 松）

設備が良くなり、全館冷房で勉強し易い。専門書ばかりでなく、静岡の本館にあるような一般教養書を充実して欲しい。

（機械科大学院1年 石 川）

すぐ役立つ技術書ではなく、将来を見通すような巾広い専門書を充実してもらいたい。

（機械科3年 広 瀬）

内容も充実していて、ここは大学図書館としては最高ではないでしょうか。ただ、術語を調べるとき不自由なので、外国語の辞典、便覧などの参考書をもっと購入して頂きたい。

（O.記）

区分階別	室名	面積	図書収容数	閲覧席数
1階		8588 ^{m²}	冊	席
	開架閲覧室	(3031)	10000	60
	ブラウジング グループーム	(50)		15
	教官閲覧室	(245)		4
	書庫	(160)	120000	
2階		591		
	一般閲覧室	(2839)		108
	自習室	(497)		24
	休憩室	(238)		4
	視聴覚室	(756)		60
塔屋		218		
計		14716	130000	275

私のすすめたい本

「金日成著作集」

吉本 健一

7月4日、南北朝鮮の統一にかんして両政権の共同声明が発表された。この声明はニクソンの中国訪問計画発表と同じく予想を越えた事態の進展にたいする驚きをもって受けとられ、また世界の対立緊張を緩和するものとして歓迎された。

日本の政府もこれに賛意を表明し、野党は日本共産党を除いてこの声明を朝鮮統一の第一歩として高く評価し支持する見解を発表した。ジャーナリズムも対話の時代とか何とか言って喜ぶ論説をかかげた。

しかし日本政府はこれを慶賀してばかりはいられないのではないかと私は心配してやりたいくらいだ。また現状変更を嫌うブチブルのジャーナリズムも何で望ましい喜ばしいとふやけた拍手を送っているのかとんと合点がいかない。

一方共産党は逆の心配をしている。アメリカ帝国主義はやいばの全重量をベトナムに向けており、ここに全反米帝勢力を糾合して対決することこそが当面最大の課題であるのに、中国は対米接近し、ソ連はこともあろうに港の機雷封鎖の直後にニクソンを受け入れ、ベトナム全面支援態勢をくずしてしまった。南北朝鮮の共同声明もニクソンの各個撃破政策の一つのあらわれでアメリカのさしがねによってバク政権が行った微笑外交に朝鮮民主主義人民共和国が乗ってしまったものだと見る。

自民党も共産党も朝鮮半島の情勢は日本の安保にとってエッセンシャルだ、ベトナムの次はもしかするとまた朝鮮問題ではなかるうかと観念的に考えたり言ったりしながら、実は朝鮮問題をそれ自体として本当に考えてはいないのではないのか。朝鮮民主主義人民共和国についてろくに知らないし、キム・イルソンの著作など真剣に読みもしないのではないかと疑われる。共同声明にたいする反応がそれを示している。

民族の分断は戦争のギセイで悲劇だ、一日も早く統一できるものならその方向に進ませてあげたいなどと日本人は言うけれど、そのギセイや悲劇の上に経済を営んでいるのは誰か忘れていないか。戦争を起しアメリカ帝国主義をアジアへ全面的に導き入れたのは誰なのか。長年朝鮮を併合し統治

したのは誰の国か。統一を願うと口で言う日本人に何をおいてもそう望むのかと問いつめなければならぬ。朝鮮人はそう望んでいる。頭でなく心と体でそう望んでいるのだ。

南北赤十字会談も共同声明も徹頭徹尾共和国のイニシアで行われていることを学んで知らなければならぬ。朝鮮革命と朝鮮における社会主義建設をめざして朝鮮労働党と共和国は輝かしい勝利の道を前進してきた。その30年に近い道程をつぶさに知れば大国の谷間にそよぐ北鮮とかニクソンに懐柔される金日成だとかという発想が生れるはずはない。それは恥ずべき発想だ。みずからの大国主義、事大主義を告白するようなものだ。

共同声明は共和国の革命路線が北半分のみでなく朝鮮半島全域に及びはじめる新しい段階に入ったことを告げている。ホワイトハウスが共同声明歓迎と言ったとか、「韓国」のキム外相が国連軍は外部勢力にあらずと答弁したとかにかかわりなく、平和統一へのとびらが開かれたことはアジア人同士を戦わせようというニクソンドクトリンの敗北であり、共同声明がアメリカ帝国主義を朝鮮から、またアジアから追い出すもっとも有力な武器となるだろうことは明らかだ。

キム・イルソンの著作を読むことは読書についての私の意識の変革を促す。これは党首の総括報告であり、首相の施政方針演説であり、指導的活動家の指導講演でありアジテーションである。共和国のすべての国民がこの著作を熱心に読んでいる。日本の個人主義者である私がこれを読んでも面白くもおかしくもない。しかしこの著作の中に歴史のもっとも凝縮した稠密な部分が息づいていることがわかりはじめたとき、反対に私の個人主義が、その狭隘さと錯誤が照らし出される。生活と政治、人間と組織といった風な分裂的思考の奇矯さと錯誤が。

たとえば祖国統一にかんする発言を年代順に、また、たとえば土地改革から農業協同化、社会主義農村建設、農民の労働者階級化という一連の農業にかんする部分を年代を追ってまとめて読むとよい。

未来社版は手に入りやすいがこれは相当に省略された選集である。ことに1950年代までのところが少い。ピョンヤン外国文出版社の「キム・イルソン著作選集」が2巻まで出ている。その方の収録量のはるかに多いが手に入りにくいかもしれない。

金日成著作集 全5巻 未来社 各950円 本館所蔵
(教養部 助教授 文学)

司書選定基準作成への一步

一般教養図書の一部を構成する司書選定図書が予算的な裏付けを得て、図書館員の自主的な選定ができるようになったのは、昭和39年の宇野館長の時代からである。当時の司書会記録によると、選定の目安として、教官選定以外の一般教養図書で、受賞著作物、ベストセラー、及び学生からの購入希望図書等もそれに含まれ、ただし事辞典、便覧、年鑑、統計類は除くとなっており、以来、この選定の骨子は踏襲されている。

しかし、近年の情報量の増大と、開架閲覧室の蔵書構成のバランスの点から、図書館では従来の選定方法の再考が提起されてきている。適切な選定のためには、まず利用者の要求に合致したものがどうかを把握しなければならないし、選定方法の標準化が考えられなければならないであろう。現在、司書会の基準作成委員会から一試案が出され将来とも検討されなければならないのだが、主題別収書方針を中心にNDC（日本十進分類法）の百区分について検討がなされている。

この過程で考慮されなければならないものは、静大の教育的機能（カリキュラム、教授法、学部構成、学生数等）と、これに関わる図書館の在り方（蔵書構成、学生の利用状況等）の把握であろう。また、選定基準そのものを空文に終わらせないためにも、選定者としての図書館員の内容評価に対する力量の問題も考えられなければならない。

ともかく、曲りなりに、「司書選定図書基準要項」（案）の作成により、選定の標準化がその緒についたわけである。今後を待ちたい。

司書選定図書基準要項（案）

1. 目的

図書館利用促進と一般教養図書の充実をはかる。

2. 選定者

司書会

3. 選定範囲

31. 基礎専門図書

32. 原則として新刊図書

321. 増補版、改訂版等の図書は、その都度考慮する。

33. 古典として評価されている図書（洋書はこの範囲内のもののみに限る）

34. 参考図書は除く

4. 評価基準

選定にあたって、次の事項を評価の基準とする。

41. 著者

411. 著者の経歴

412. 著者の専門と研究主題

42. 主題（主題別収書方針を参照）→現在検討中

43. 著作の評価

431. 著作の専門分野での評価

432. 書評での評価

44. 発行者

441. 発行者の性格

442. 発行者の出版傾向

443. 発行者に対する社会的評価

45. 書誌的事項

451. 註、参考文献、書誌、索引等の有無

（6ページ左下へつづく）

■第2回東海地区国立大学 図書館業務連絡会議

昭和47年6月22日

於 本 館

テーマ

- (1) 図書館業務の簡素化・合理化
- (2) 延長開館の実態
- (3) 外貨の換算
- (4) 寄贈図書の価格の査定
- (5) 備品消耗品の区分基準
- (6) 事務用目録の編成
- (7) 装 備
- (8) カードの複製方法
- (9) 国立国会図書館印刷カード
- (10) 亡失対策としての閲覧方式
- (11) 粉失図書の弁償
- (12) 開架図書の納庫基準
- (13) 学生希望図書の取扱い
- (14) 図書館職員の研修
- (15) 受入資料の整理作業工程の確認方法
- (16) 学生用図書の選定基準
- (17) 指定図書制度の今後の運用

参加校は名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、三重大学、岐阜大学、静岡大学で、提案理由が述べられた後、各館の現状報告と意見交換が行われた。

■附属図書館白書〈その2〉

〔図書館職員増加率調〕

年度		昭和	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	
職員数	定員	(1) 人数	17	17	17	17	17	17	19	19	19	19	
		増加率	100	100	100	100	100	100	112	112	112	112	
	定員外	(2) 人数	0	0	2	2	2	3	5	5	5	7	
		増加率	0	0	100	100	100	150	250	250	250	350	
		(2) ÷ (3) %	0	0	11	11	11	15	21	21	21	27	
	(3) 計	17	17	19	19	19	20	24	24	24	26		
増加率	100	100	112	112	112	118	141	141	141	153			
現員内訳	総務	(4) 人数	6	7	7	7	6	7	7	7	7	7	
		増加率	100	117	117	117	100	117	117	117	117	117	
	係	(5) 定員外数	0	0	1	1	1	1	1	1	1	2	
		(5) ÷ (4) %	0	0	14	14	17	14	14	14	14	29	
	整理	(6) 人数	6	5	5	7	8	7	9	9	9	10	
		増加率	100	83	83	117	133	117	150	150	150	167	
	係	(7) 定員外数	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	
		(7) ÷ (6) %	0	0	0	0	0	14	11	11	11	20	
	運	用	(8) 人数	4	5	6	5	5	6	8	8	7	9
			増加率	100	125	150	125	125	150	200	200	175	225
係		(9) 定員外数	0	0	1	1	1	1	3	3	3	3	
		(9) ÷ (8) %	0	0	17	20	20	17	38	38	43	33	

■東部地区図書委員会報告

(第1回) 昭和47年4月26日

- (1) 当委員会への法経短大図書委員の加入について検討の結果、次回以降に各部局の意向を持ち寄ることとした。
- (2) 今年度指定図書の予算について図書館委員会に審議を依頼することとした。

(第2回) 昭和47年6月16日

- (1) 昭和47年度本館維持費は、図書館側の案のうち整理補助員の賃金を訂正のうえ6月19日の東部維持費検討委員会に提出することとした。
- (2) 昭和47年度教養図書購入費は、前年並の割合とすることとした。
- (3) 学生の図書館利用に関する特別措置は研究を阻害しない範囲で運用することを条件に承認された。

(5ページよりつづく)

- 452. 印刷の鮮明度の高いもの
- 453. 造本の堅牢性の高いもの
- 454. 用紙の質の良いもの
- 455. 装幀の良いもの

※

(I. 記)

お知らせ (本館)

(1) 延長開館について

前記試験の為下記通りの通り開館時間を延長します。

期間 9月7日(木)～30日(土)

時間 月曜～金曜 17:00～19:30

土曜 12:00～16:00

(2) 通常貸出は10月2日(月)から行います。

(3) 電話局番の変更について

静岡大学(代表) (37) 1171

附属図書館(時間外) (37) 1188

内線は従来通りです。

※46. その他の事項

- 461. ベストセラー(通俗的、一般的なもの)は選定しない
- 462. 文学、時事的なものには、考慮を払う
- 463. 安価な図書は原則として除く
- 464. 小型版は除く
- 465. 複写による図書は除く
- 466. 1冊5,000円を越えないものとする
- 467. 講座、全集等は、予算の1割以内(継続図書を含めて)とする